


**岡潔 (Oka Kiyoshi)**



日本最高の数学者であり、  
数学に全てを捧げた奇人

利根夫  
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8A%93%E6%B3%A1%E6%B8%B4  
鈴木 智也 No.27014662

**岡の経歴**

- 1925年 京都市立大学理学部卒業
- 1925年 京都帝国大学理学部講師
- 1929年 生涯の研究テーマになる多変数解析関数に出会う!
- 1938年～1964年 様々な大学で経歴も経歴も輝かす。
- 1969年 京都産業大学理学部教授に転任
- 1978年3月1日 (満76歳) 永眠

当時、ムズくて誰も  
やらなかった理論

**岡の主な業績(1)**

- 三つの大問題の解決⇒???
- ハルトークスの逆問題(レヴィの問題)⇒関数は連続
- 不定域イデアル(後にこの概念のおかげで岡という現代の数学において極めて重要な概念が生まれる)
- 岡の連接定理⇒幾何+代数学+複素関数論

**岡の業績(2)**

• **多変数関数論**  
変数の数を増やして一般にn 個の複素変数  $z_1, z_2, \dots, z_n$  の正則関数  $f(z_1, z_2, \dots, z_n)$  を考える。局所的には、考えている点  $(a_1, a_2, \dots, a_n) \in \mathbb{C}^n$  の近くで、次のように収束半径で表されるものである。

$$f(z_1, z_2, \dots, z_n) = \sum_{\nu_1, \nu_2, \dots, \nu_n} c_{\nu_1, \dots, \nu_n} (z_1 - a_1)^{\nu_1} (z_2 - a_2)^{\nu_2} \dots (z_n - a_n)^{\nu_n}$$

**岡が奇人と呼ばれた訳**



**詳しく見てみよう!**

- 岡の講義は、まず黒板一杯に数式を書き、書き終わると考え込んでしまい、一言も喋らない。生徒達が騒ぎ出すが見に入らない。そう、彼は自分の研究テーマに夢中で講義をする暇もないのだ。
- ある日、岡は大事な講演会があったが、その日は機嫌が悪く、岡はマイクの前で「アッーアッー」と叫び、「今日は晴天なり、今日は晴天なり」と言ったまま、講演は全くせず、サッサと帰ってしまった!
- ある路地先の大学の手前岩があり、その岩に小石を投げるのを岡は出勤時の日課にしていた。
- 小石がうまく、この岩にのつからず、そのまま大学に入って数学の講義に行っていたが、五、六回やってみると、リターンして帰ってしまった etc...

**でも、その反面...!**

- あまりの質さに海外から多くの有名数学者が岡を訪ねていた。
  - 日本の歴代数学者で五本指に入ると言われる。
  - 「岡の研究者」や「岡思想研究会」がいる。
  - 天皇陛下より**勲三位**(じゅさんみ)という位を貰う。
  - お爺ちゃんになってからは真面目に講義して生徒から高評価。
- 公認的な感じ
- などなど、多くの人から評価を得て、親しまれていたのも事実である。

**～まとめ～**

- 非常に奇人であった岡だが、彼は数学界で重要な概念を生む助けをし、当時まだ未だ発展途上であった多変数解析関数論において大きな業績を残した。
- 世間一般では真人・奇人と呼ばれて、多くの人が岡に良い印象を持たなかった。しかし、そんな彼を尊敬し、憧れていた人も少なくない。



2001年にアマテラス  
が生まれる

愛子様:2001年12月1日誕生日

